文京区アカデミー推進計画策定協議会
第３回観光分科会

日時：平成２２年８月５日

午後１８：３０～２０：３０

場所：文京シビックセンター２１階　２１０１会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文京区アカデミー推進計画策定協議会 第３回観光分科会議録

（敬称略）

「出席委員」

座　長	野口 洋平
委　員	上田 武司
委　員	奥田　匠
委　員	市川 正明
委　員	山本 重子
委　員	小野 光幸

「事務局」

アカデミー推進部観光・国際担当課長	小野 光幸
アカデミー推進部アカデミー推進課	池田 一智
アカデミー推進部アカデミー推進課	佐藤 祐司
株式会社富士通総研	高橋 誠司
株式会社富士通総研	近藤 田津

○野口座長:お忙しい中ありがとうございます。第３回「文京区アカデミー推進計画策定協議会 観光分科会」を開催したいと思います。今回が最後の分科会になりますので、まさに仕上げといいますか、資料も整って来ましたので、最終確認といった形でやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。ではまず出欠の確認を事務局からお願いしたいと思います。

○事務局：はい、本日の出欠についてご説明いたします。中井委員と白井委員の２名から欠席の連絡が入っております。以上でございます。

○野口座長：はい、それから席上の資料の確認をお願いしたいのですけれども。

○事務局：はい、配付資料を確認させていただきます。まず、事前に郵送でお送りした第３回観光分科会の次第等の資料はお手元にございますでしょうか。それ以外に本日席上配付している資料が２点ございます。１点目は座席表です。もう１点が文京区アカデミー推進計画策定協議会分科会ご意見シートとなっております。

○事務局：席上のカラーのチラシですけれど、「文の京地域文化インタープリター」の企画展のチラシとなっております。アカデミー推進計画策定協議会の委員の中にも、インタープリターとして企画展に参加をされている方から、皆さまにも配付していただきたいという依頼がありましたのでお渡しいたします。また、所属している団体ですとかサークル等で、チラシを配付してもいいということがありましたらご連絡をお願いいたします。以上でございます。

○市川委員：１つ付け加えさせていただきます。私もインタープリターやっていまして、ここの中で下のほうに書いてあります９月 24 日金曜日～５月５日、会場文京シビックギャラリーと豊島区の鬼子母本堂、鬼子母神堂ですね。その２行下に別紙うんぬんと書いてある行があるのですが、すいません、別紙はこれには付いておりません。別紙の内容は、護国寺の正門から鬼子母神堂まで歩くまちあるきの案内をするとことがあったのですが、いつ集合していつ解散すると。何月何日というのが抜けておりまして、基本的に土曜日と日曜日だけでして、詳細については当日シビックのギャラリー、あるいは鬼子母神堂のほうで別紙を配付するということでしたので、大変恐縮ですがその辺ご承知おきください。すいません、以上でございます。何かありますか。

○山本委員：インタープリターさんはすごく頑張ってらっしゃって。英語観光ボランティアも協力させていただいて参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

○事務局：では、引き続き資料の説明をさせていただきます。まず資料、観光第９号と右上にあるものでございますが、こちらは分野別の計画骨子(案)です。第２回の分科会にお示ししたものにご議論いただきました内容も踏まえ、分野別目標ごとに現状と課題、取り組みの方向などについて整文したものでございます。それから２点目の資料、観光第 10 号でございますが、これは観光の事業例(案)の取りまとめ資料で、こちらは前回ご議論いただきました事業例を整理し、事業名とその概要および考えられる担い手を一覧にしたものでございます。資料の説明は以上でございます。

○野口座長：ありがとうございます。では次第に沿って進めてまいりたいと思いますが、今日やるべきことは大きく２点ございまして、まず１つが今ご説明あった分野別計画骨子(案)の体裁だとか内容といったものを確認していくということです。それから２点目が同じく資料にあります事業例ですが、それについても事業内容の補足であったり追加、そういったことをしていくというのが今日の作業になるということです。これまでも皆さんのご議論だとかご意見というものを入れてある資料ですけれども、先ほど何か一部抜けているものがあるのではないかというお話もありましたけど、そういったことも含め、また現状では、これはまだ仕上げの段階じゃないそうで

す、細かな意味では。つまり文章的なことや体裁は、ほかの分科会との調整があるそうですので、これが最終形ではないのですけれども、ただ内容的に今日議論するのは最後ですし、この分科会はだいぶ進んでいますので、今日は本当に言い忘れていることがないかという確認になると思うのですけれども。そういったことをやって、最終的に今日はこれでいいよねということになった部分については、ほかの分科会との調整を含めて、行政側で最終的には仕上げてもらっていくということにしていきたいと思います。ではまず骨子(案)の内容の説明をお願いしたいと思います。

○事務局:皆さまのお手元にございます右上に第９号と書いてあります骨子(案)についてご説明いたします。お時間の都合もございますので、本日は、前回配付したものから大きく変わっている部分についてのみご説明させていただきます。まず全体的なところですけれども、まずは前回皆さまからご意見をいただきました意見を踏まえて文章等を修正させていただいております。あと現状と課題の現状部分ですが、前回は黒ポチがあって文章があって、また黒丸があって文章があって、という体裁になっておりましたけれども、今回黒丸を外し、文章が続いている形で体裁を修正しております。もう１つ大きな点ですけれども、現状と課題、基本的な方向、そして期待される効果という形で文章が続いていますけれども、期待される効果の内容が今回追加されております。前回皆さまから事業の中身についてご意見をいただきましたので、そういうような事業を展開することによって、こういうような効果が期待されますというものを文章で起こしたものになってございます。もう１つ大きな修正点といたしましては、３ページ目のところ、事業例という枠を追加しております。こちらは、前回はほかの分科会との関係もあり調整していたのですが、今回この計画におきましては、事業例という形で現状と課題、基本的な方向、その後に、後ほど資料 10 でご説明させていただきますけれども、事業例をこのような形で事業の名前、中身、担い手という形で整理するという形が固まりましたので、イメージとして、まずはこの枠をお示ししております。全体的な修正という意味ではこちらになります。

何点か中身についてご説明をさせていただきます。１ページ目のところから柱１「まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出」とございますけれども、前回こちらの中の現状のところで、区民生活に対して悪影響が懸念されています、というようなお話があったのですけれども。では区民生活への悪影響というのはどういうことがあるのでしょうかというようなご質問等がございまして、悪影響というのは区民生活と非常に観光施設が密着していて、外来者が溢れることによって、その区民の方に騒音ですとかごみだとかいわゆる外来者のマナーの問題があるというご指摘などがございましたので、今回１点目の現状と課題の最後の行になりますが、こちらのほうに「ごみの持ち帰りといった来訪者のマナー向上など区民生活への配慮を求める声が多くあります」という形で来訪者のマナーという形で言い回しを変えさせていただいております。柱１の大きな変更点といたしましては以上になります。

次に柱２の４ページ目以降になりますが、こちらは「まちあるきや交流のための環境づくり」という中身になってございます。修整点は５ページの(４)と(５)になります。(４)「文の京の魅力を生かすイベントの推進」と書いてございますけれども、前回は「まちあるきイベント等の推進」となってございました。それに対し、文京区では今まちあるきを推進しているところではあるのですけれども、歴史や文化といったような文京区ならではの資源を生かしたまちあるき以外のイベントということも考えられるのではないかというようなご指摘がございましたので、今回こちらの(４)のタイトルをまちあるきに限定しないで「文の京の魅力を生かすイベントの推進」と変えまして、その下にあります３行の文章につきましても「本区の資源に触れるきっかけの１つとして、まちあるきイベントに参加できる機会を増やすとともに、本区独自の歴史や文化などの資源を生かした新たなイベントづくりに取り組みます」という形で言い回しを変えております。

次に(５)のＭＩＣＥの誘致というところですけれども、前回、ＭＩＣＥの後のアフターコンベンションのことが比較的多く書かれているということがございましたので、文章の２行目「本区での開催のメリットを整理しＰＲすることによりＭＩＣＥの誘致を進めます」ということでＭＩＣＥ自体の数を増やしていくという取り組みを強く打ち出すという意味で文章の表現を変えさせていただいております。柱２につきましては以上でございます。

７ページ目以降の柱３ですけれども、「まちづくりのための情報発信」、皆さまから情報発信が非常に重要だというご指摘をたくさんいただきましたので、全体的に修正を加えております。前回挙げられた意見には、さまざまな視点で情報をまとめるですとか、情報発信を工夫していくことが必要というお話がございました。中でもやはり情報発信が、今、文京区の抱える課題としてかなり重要というご指摘もございました。そういったことを受けまして現状の中では、例えば７行目辺り「そのため、区としてのブランド力や各資源とのつながりを強めるための情報発信の強化が本区の観光振興において特に重要性が高い取り組みとなっています」というような形で情報発信の重要性を打ち出すとともに、発信の工夫が必要という点につきましては、最後の３行辺り「まちあるきをしている人が、その感想やその人ならではの楽しみ方を、新鮮な情報を発信する」、その下に「区内にはそういた情報発信の発信者となりうるような方も多くいるので、さまざまな視点から本区の魅力が広く発信されていくことが期待されます」というように、さまざまな視点、新鮮な情報という意味合いを文章に加えております。柱３につきましては以上でございます。

最後に柱４についてですが、こちらも皆さまからさまざまなご意見をいただきました。例えば行政の役割はどうあるべきかとか、さまざまな主体が連携して活発な動きが展開されていくことが大事というようなご指摘ですとか、区民や事業者のホスピタリティーを高めていくことが必要、というようなご意見をいただきました。具体的には区民ですとか、先ほども出ましたがインタープリターの方々が活動できる場づくりが必要というご意見ですとか、区民の方々、事業者の方々のおもてなしの心を高めていくことが必要というご意見が挙げられました。具体的には外国語の対応とかが挙げられたのですけれども、そういったものを踏まえ、現状の下から３分の１ぐらいのところで、「また」から始まっている部分ですけれども「また、今後高齢者や外国人の来訪者が増えることが想定されているため、バリアフリー化やメニュー等の多言語表記など、高齢者や外国人に対するおもてなし環境の向上に向けた取り組みの必要性も高まると考えられます」などおもてなしに関してですとか、下２行～３行のところ「今後は学生や地域で活躍する団体なども含めた、さまざまな人々のネットワークづくりや連携した取り組みを地域の枠を超えて展開していくことが期待されます」という形で、これは課題②にもあるのですが「区民や商店街、教育機関など、区内のさまざまな主体が連携する体制を整える」と文章に皆さまのご意見を反映しております。骨子につきましては以上でございます。

○野口座長：ありがとうございます。基本的には皆さんにお話していただいたことを含めて、こういった骨子(案)の形になっているわけですけれども、再三申し上げているとおり、ほかの分科会の様子が違うそうなので何とも言えないわけですけれども、現状では我々の分科会は、こういったものが出来上がっているということで、細かな文言とか「て・に・を・は」とか用語の統一とか、そういったことは事務局に事務的にやっていただくことになると思うのですが、内容面ではいかがでしょうか。もしご意見があれば今回最後の確認作業になるので、入れ忘れているものがあれば、今日この場でお願いしたいと思いますけれども。

○市川委員：すいません、アトランダムでよろしいですか。５ページのＭＩＣＥなのですけれども、いわゆるＭＩＣＥを誘致するうんぬんということですけど、観光庁との関係というのがここに盛られてないのは、何かそれとは独自でやるという考えなのでしょうか。

○野口座長：どうしましょうか。どういうふうにお答えしたらいいですか。

○市川委員：いや、この間ちょっとテレビでやっていたものですから。

○小野委員：当然、誘致となると、東京都はじめ国とも連携はいなければいけないと思います。それが具体的な施策として出るかどうかという感じです。

○市川委員：ということは、すいません。

○小野委員：今のところ、事業では出ていないと思います。

○野口座長：観光庁と絡めるかどうか、観光庁のほうを書くかということですけど、それだと、例えばこれは環境省に関係あるね、これは国土交通省とかなっちゃうので。そういう意味では実際にアクションをするときには、もちろん官公庁とやんなきゃいけないときもあるでしょうし、実は官公庁は国土交通省の外局ですけれども、実は観光をやっているのはそこだけじゃなくて、経産省もかなり一生懸命やっているので、逆にここに観光庁って書くと、経産省は「じゃ、おたくは観光庁でやればいいでしょう」となっちゃうので、むしろ書かないほうがケースバイケースでいろんなところと。厚労省も実は文科省もやっているのです。なので、特定の省庁のことは書かないほうが、文京区さんだとよろしいかなと。いろんな省庁とお付き合いしたほうが。

○市川委員：都とか国とかの関連は書かずに、表現しないということですね。

○野口座長：物事のレベルによっては国とか都にかかわってくると思いますので、それを言い出すと多分、恐らく全部そうなっちゃうと思うので。ＭＩＣＥに関しては特に書かなくてもいいかなというのが私の読みなのですけれども。

○市川委員：分かりました。

○奥田委員：少しＭＩＣＥの関係で言わせていただきますと、後で言おうと思ったのですけれど、誘致というのを表現しているのですけど、多分誘致の意味合いというのが幅が広くて、海外の学会本部などに行って取ってくるという場面から、こちらにも書いてあるように、アフターコンベンションで場を提供するみたいな辺りまで、非常に先鋭的なところからすそ野の辺りまで、もっと広いと思うのです。おっしゃった観光庁なりＪＮＴＯ（日本政府観光局）なりがやっているのは、海外からの引き合いとかを受けたときに、区だとかコンベンションビューローとかに振ってくるという流れになるので、そういう流れから考えると、多分ここに書いてあるのは、そのアフターコンベンション中心に手挙げをしていくみたいなすそ野の部分だと思うので、そういう意味合いからも、あまり国とかそういうのは関係ないかなと。文京区が食らい付こうとしているＭＩＣＥのレベルと国だとかＪＮＴＯのレベルは関係ないかなという感じがします。

○野口座長：当初は、アフターコンベンションのことはかなり書かれていたのですけれども、ＭＩＣＥといっても今、国内大手がやっているような、例えばビックサイトみたいなところがやっている、そういうのばかりじゃないと思うので、小規模なものであれば誘致もあり得ると思うのですが。奥田さんがおっしゃったように、実際、まずは体制づくりだと思いますので。ただ誘致ということも書いておかないと、いわゆる積極的にというか、ＭＩＣＥ本体の誘致ということも将来的には、これは10年先の話なので、そういうこともできるように、特に大学も多いので、こういうニュアンスは入れといていいだろうとは思っているのですけれども。あといかがでしょうか。

○市川委員：よろしいですか。７ページの現状の下から２行目ですけど「そうした情報の発信者となりうる人材が多くいるため」と書かれているのですが、これは多くいるから、だから勝手にやってください、やるだろうという期待値が入っているということですか。「期待されます」だから、そうだと思うのですけれども。

○野口座長：その前のところに「実際にまちあるきをした人の感想や、その人ならではの楽しみ方など新鮮な情報を発信することができる」と書いてありますね。

○市川委員：そうですね。そうした情報というのは新鮮な情報のことですよね。

○野口座長：そうですね。だから必ずしも来訪者だけじゃなくて、今区内にいる人の中にも情報発信をできる人というか、情報を持っている人とがいるだろうから、そういう人が発信してくれることが期待されるということだと思うのですけど。

○市川委員：今は少ないということですか、よく分かんない。今でも多いのですか。そしたらどんどん発信しているのではないかなと思ったのですけど。

○上田委員：これは組織だってないですね。今年の３月に商工会議所と一緒に大分県の豊後高田市という「昭和の町」、昭和の時代のまちづくりをそのまま取り入れて、古い建物やなんかそのまま再生したり、極端に言えばまちのバスや何かを全部ボンネットバスにしたり、ミゼットを走らせたりという。その中でまちのボランティアがいるわけです、まちの紹介の。それは全部そこに住んでいる人、特にそこに生まれた人、農家のおばさんとか、そういう人たちが毎週土曜・日曜日、交代でボランティアとしてまちの紹介をしているわけです。その紹介の仕方がなかなか面白くて。昔、田舎ですから毎日まちへ出て食堂なんて行ったことないと。たまに映画を見て帰るとき「このお店でカツ丼を食べるのが子どものころ本当に楽しかった」とか、そういう紹介の仕方をやりますと「なるほどな」と納得するわけです。そのお店もかなり古くなっていまして、私はちょっと中に入る気がしないようなお店なのですけど。その本人にとっては本当に大事な、大事なおそば屋さんなのです。とんカツ屋なのです。そういう原点の人たちの地元のまち上げガイド、ボランティアガイドをきちんと整備しているわけです。高田市の観光協会とか、商工会議所とかがきちんと整備して立ち上げております。そういうのが今の文京区にはないかなと。それをどうやって区の中で、その要因を立ち上げたり組織をつくっていったり、その費用を捻出したりということを考えていくのはこれからの話じゃないかなというふうに思います。文京区には何もないですね。で、結構知っている人いっぱいいるのです。地元で何年も何年も住んでいる人たちで。

○奥田委員：野口先生ちょっとよろしいですか。時間の関係もあるので、気になったところだけどんどん言わせていただきます。１ページ目の現状の最後のパラグラフで後ろから３行目「区民の日常生活エリアに立地するものもあるため」と書いてあるのですけど、観光ビジョンでは生活区域内に点在しているみたいな感じの書き方だったと思うのです。「ものもあるため」というような書き方が正しいのかどうなのかというのは、あとで本編と合わせていただいたほうがいいのかなと。それから２ページ目、基本的な方向の(２)・２でまちあるきのことが書いてあるのですけれども、これは本編では別に１個独立した項になって「区民の生活に配慮したまちあるきの仕組みづくり」というところで取り上げていたテーマだと思うのです。それが(２)のところにストーリー性あるコースづくりのところに、要するに周りの生活配慮というようなものがこつぜんと入ってきているので、むしろ本編では分かれているのだから、項を分けて文京ブランドの構築の次くらいの序列だったと思うのですけれども。当たり前に項を分けて本編とこれも整合したほうがいいのではないのかなと。作り方だけの問題なのですけれども。

もう１つ気になったのは、７ページ目の現状の第２パラグラフで「本区はそれぞれの観光資源や文京区自体の知名度は高いものの施設等々、それが文京区にあるという結び付きが弱いことが１つの特徴となっている」、結び付きが弱いことが１つの特徴となっていると、結構強い調子で書かれているのですけれども。同じことを言うのでも、もうちょっとあまり強くないとか、もう少し和らげていったほうがいいのではないのかなというのはすごく読んでいて感じました。

それから、その３行後に「本区の観光振興において特に重要性が高い取り組み課題となっている」となっていますけれど、これは表現上の問題ですけれども「特に重要である」とさらっと言えばいんじゃないですか。ここまでのところではそれだけです、気が付いたところは。

○小野委員：文章上のものは確かに私のも赤が入っておりまして、それがまだ反映されていない、

まだこなれてない状態です。

○奥田委員：こなれがね。

○小野委員：ほかの分科会との整合も取って、６つあった柱を４つに分けたのですけど、そのときに確かに奥田委員がおっしゃるとおり２ページ目の(2)･これって暮らしの配慮というところで、違うところであってもおかしくないというのは私も気が付きまして、うまく入れられればなとは思っていたのですが。

○奥田委員：同じ屋根の下に入りそうな感じがしないですよね。

○小野委員：そうなのですね。ここを(5)として出すか。

○奥田委員：ただ各論の施策で、結構住民生活に配慮したという辺りが出て来るので、前段の基本的な方向の中のどこかに書いといたほうがいいのではないのかなという感じはしました。

○野口座長：要は文京区、特にこのビジョンでは、いわゆるまちあるきをみたいなものがすごく魅力の大きな柱になっているわけですけど、まちあるきをというと、何かすごくいいことばかりのように思うのですけど。まちあるきをということはそこに住む人たちのそばを通っていくということなので、そういう魅力を追求すればするほど、同時にそれが持続可能かどうかというところも同時にアセスメントしていかなきゃいけないというのがあって、そういう意味ではここに入っていてもいいかもしれないし。しかし環境づくりという別な項目があるので、そっちに入れたほうが収まりはいいかもしれない。そういうところかもしれないですね。

○小野委員：ビジョンのまとめ方をあまり崩したくなかったので、こちらに入ったという感じです。

○奥田委員：ビジョンのまとめ方だとブランドの次に来るのではないですか。あとでまとめていただければ。

○小野委員：了解しました。

○野口座長：今のご指摘はそのとおりだと思いますので、あっておかしくないところであり、かつ一番効果的な場所に入れたほうがいいと思います。それから各施設と文京区との結び付きが弱いことが１つの特徴だというのは、下手な開き直りみたいに聞こえてしまうところがあるので、おっしゃるとおり、結び付きがそれほど強くない、という指摘もあるというくらいのほうがいいかもしれませんけれども。

○奥田委員：あとはいいのではないのかなという感じが、よくまとまっていると感じました。これがほかの分科会のまとめ方と音合わせができるといいのですね。全然濃淡が違っちゃったりね。

○小野委員：他分科会はここまで進んでない状況であります。

○奥田委員：やっぱり現状出して、課題出して、方向性出して効果まで出したら立派なものですよね。でも、後でもって効果を追求されちゃう可能性が。

○小野委員：ビジョンがあるので、かなり早いですね。

○奥田委員：そうですよね。

○野口座長：私が最初に気になったのは、普通、期待される成果というのはよく耳にするのですけど、期待される効果という、効果はちょっとでもあればよかったということなので、成果となると何か成し遂げたことにならないといけない。その目標をクリアしたとかならないといけないので。そういう意味ではこういう文章としては効果と言っておいたほうがいいかなというふうに。私も、これ一瞬直したほうがと思ったのです。普通期待される成果でしょう。何か目標があってクリアされるというイメージがあると思ったのですけど。まだこの計画骨子ではちょっと曖昧なところもまだありますし、実際の具体的な事業例との兼ね合いもあると思うのですけれども。現状と課題を整理して、基本的な取り組みの方向性というのがあって、そういうことによって効果が現れてくるという流れだと思うので。

○奥田委員：これで手形を切ったような格好になるでしょう。１個、１個、あれはどうなったのって聞かれる危険性というのは極めて高いですよね。

○小野委員：ですから、あくまでも事業例としてまとめております。

○上田委員：うちの商店街も、７ページの４行目に「イベントの開発や観光グッズ」。この観光グッズに対して文京ブランドという品物をこれから開発していこうと考えています。ご当地商品ですね、ご当地グッズ、それを観光だけじゃなくて、この場所で例えば本郷なら本郷の品物、音羽なら音羽の品物、これからコンサルを入れて少し考えていこうかというのは今年から始まった動きかと。そこにしか売ってないというものを開発していくわけ。それもものすごく難しいですから一番簡単なほうからやろうかといって、今お弁当屋さんが自分の新しいお弁当を作って本郷弁当とかいう感じのものでも、それから始めるかと。そんなことから今ちょっと考えているわけなのです。ですからこれを観光グッズっていう大きな平面的な話じゃなくて、文京区ブランドみたいな形をしていただければ、我々は必ずその方向に進んでいきたいと思っていますので、それをやっていかないと我々の文京区商店街はちょっと行き詰まってしまう。今、「吾が盃（わがはい」）とかそういうのを作っているのです。お酒の盃を入れてね、猫の絵を真ん中に入れてしっぽがずっと外側に入れて、吾輩は猫であるというような、そのようなブランドの商品を少しずつ開発しています。そこまでお金を掛けなくても、何かもっと簡単なものから入っていきたいなという。誰でもできる文京区と、そんなものを今考えているわけです。

○野口座長：民間からそういう取り組みが始まるのが一番自然ですし、当事者が本当に真剣にやるでしょうから。そういうのが一番長続きしそうな気がしますし、望ましい在り方だと思うのですけど。それが行政なり何なりが逆に頭を下げて利用させてくださいとなるというか、そういうのが一番長続きする方法だと思いますね。

○上田委員：11 月の二十何日かな、ぶんぱくというのをやっているのです。文京博覧会、そこはほとんど今文京区との提携先の市町村。

○市川委員：すみません、もう１回。

○上田委員：ぶんぱく、文京博覧会。あれは経済課でしたっけ。

○小野委員：そうです。

○上田委員：ですね。経済課でやっていたのですね。

○市川委員：ずっとやっているのですか。

○上田委員：ええ、毎年やっていますよ。

○山本委員：全然知らないですよね。

○上田委員：毎年やっています。今ほとんど外部のほうが多いのですよ。例えば樋口一葉絡みで甲州市と提携したり、それから湯ノ谷村と保養契約していますから、南魚沼のお酒、石川啄木さんの記念館が行っちゃった盛岡とか、あっちのほうでやっているわけなのです。それより地元の品物を出品しようよというのは、この間の委員会の話で、コンサルタントを入れて開発していこうかという話。何とか 11 月の末までに１つでも２つでも出来上がってくれればいいなと思って、今回、本気になって取り組んでいるわけです。

○小野委員：全く知らないですか。

○山本委員：知らないですよ、区民はいかに知らないかですよ。

○市川委員：全然、何にも知らない。僕は何年も、10 年以上住んでいて。

○山本委員：私たち出入りしている者でさえ知らないですもの。本当、広報ってもっと頑張んないと。広報さえどうしたらいいのですかね、本当にいつも不思議なのです。ある一部分の人だけは知っていて、結構出入りしていますよね、最近シビックに。それでも知らないこといっぱいあって。

○市川委員：もう１年ぐらいになるかな。

○上田委員：今、いろんなことやっているのですよ。特にＢ２の区民広場が今度施設から経済課のほうに移りましたでしょう。ですから結構使いやすくなって。

○小野委員：あそこはいろんなイベントやっていますよ。

○上田委員：今、すごいですよ。

○山本委員：この間のあれだから。

○小野委員：広報でも出しているのだけども、やっぱり広報じゃ。

○山本委員：広報読まない？

○小野委員：そうなのですか。ホームページは見ないですか。

○上田委員：ああ、見ない、見ない。

○山本委員：見ないわね。じゃどうしたらいいのですか。

○山本委員：そうしたら区民の意識が低い。すいません、反省しました今。

○上田委員：だから自治会の使い方がちょっと下手なのですね。

○山本委員：町内会とか頑張っているのですけどね。

○上田委員：だって今、文京区に 155 の町会がありまして、そこの掲示板の数が 1 町会で 7 つ位あるよね、だから 1,000 位、文京区の掲示板じゃなくて、まちでお金を出して建てている掲示板、それが 1,000 弱ありますから、そこにポスター貼るだけでも。

○山本委員：素通りしていますよね、皆さんね。

○小野委員：そうですか。

○山本委員：町会もっとうまくできないかなと思うのですよね。

○市川委員：どんなものかが分かんないと読まないのです、見るだけです、見ると忘れちゃいますよね。

○上田委員：確かにぶんぱくのポスターは意味不明。

○山本委員：何かみんな反省して。

○上田委員：誰が作ったか知らないけど。

○市川委員：どんなものか分かんないと。

○上田委員：そう、内容は全然分かんないです。単なる物産展になっちゃって。

○山本委員：ああ、物産展。

○上田委員：でもなかなか面白いですよ。例えば西片町のほうは。

○山本委員：西片ですか。近くですね。

○上田委員：あそこは福山市さんでしょう。広島県福山市阿部ですよね。その福山市からいろんなものを持ってきたり、なかなかやっていますよ。

○山本委員：ご存じでした、小野さん？

○小野委員：はい。

○山本委員：失礼しました。ちょっとテストしてみた。

○上田委員：ほとんど平日あそこで生活している人ですから、この人は。

○山本委員：すいません、そうでしたね。

○小野委員：でも区民の方に伝わっていないのは。

○山本委員：町会がもっと活性化したらいいですよね。もう、おじい様、おばあ様がやってらし

ていて。

○上田委員：いや、そんなことないです。私、町会長ですから。

○山本委員：私も一応。最近、母が引退し私が借り出されて、大変な目に合っていますけど、結構これをうまく利用できたらいいのですけどね。このポスターも貼ろうと思っていますので。

○市川委員：だから、ま、数が分かったのでうれしかったです。

○上田委員：ですから、この３番の観光まちづくりのための情報発信って具体的にどうするかを本当は聞きたいです。

○小野委員：これは事業例で出ていますけれども。

○野口座長：具体的な事業例は後ほどみたいと思いますけど、後はいかがですか、骨子(案)は。

○市川委員：さっきの７ページのどうなったのですか、結論は。僕の質問「そうした情報の発信者となりうる人材が多くいるため」これは、いるため期待されるという、ただのお話になっているわけですか。それともお話じゃないの。

○奥田委員：具体的な施策を見ると、ブログだとかツイッターみたいなものを使いながらっていうイメージが出ていますよね。だからそれは自由にやってくださいよという感じも出ていますよね。

○市川委員：だからもう自由にやってくれと。

○奥田委員：ええ、そんな感じの部分もありますよね。

○市川委員：ということは、ブログとかツイッターというのは見る人が期待して書いてないですから、自己満足ですよね。それでもいいと。

○奥田委員：それはかなり有力ですよね。

○野口座長：ここでイメージしているのは、まちによって、例えば外部から引っ越してきた人が多いまちもあれば、昔から住んでいる人が多いまちもあるし、それがミックスしているまちもある。それからそういう情報発信をしようという意識が高いところもあれば低いところもある。いろいろあると思うのですけど。そういった意味では、仮にそういうブログとかツイッターというツールがあっても、実際に情報発信されなかったら意味がないので。ただ現状では、ここでの表現というのは恐らく文京区内には、仮にそういうツールがあったら情報発信できる、もしくは情報を持っている人がいるでしょうという、だからこういう情報発信を強化していきましょうということのバックグラウンドはしっかりしていますよ、ということだと思うのです。チャンスがありますよと。つまり、いざ発信しようと思ったときに誰も担い手がいないというのじゃなくて。

○市川委員：それは本当のことなのですか。

○野口座長：そう思います。この間のアカデミーの全体会議も、本当にまちのことをよく考え、まちのことをよく知っている方があれだけいるわけですから。あれはごく一部の方ですよね。それは他の市町村と比べたら、すごく意識が高いと思います。そもそも役所にアカデミーと名前が

付くセクションがあるわけですから。相当意識が高いと思います。そういう方たちがここで暮らしたり、勉強したり働いたりしていて、その人たちが情報発信していくということが、都市的な観光の情報発信の仕方だと思いますし。そういうことが担える人材がいなかったら、そんなことを仕掛けてもしょうがないですけれども、現状いるのではないですかという理解だと思うのです。

○上田委員：でも、これはかなり諸刃の刃ですよね。思い入れで誤った情報を流すのがかなりありましてね。小野課長も知っているとおり。この間ひどい目に合いましたよね。１行削除したりして何とかごまかしたというようなこともありますから。かなり慎重にしないと、みんなが見るわけですからね、これ。

○小野委員：個人の皆さんで、いろいろ情報発信をしていただけると見るチャンネルも増えますので、そこで拾っていただければ。その情報の精査は受け取った人が行政などに聞くなりしてという形で深めてもらう。実際に英語観光ボランティアの方でブログやっていらっしゃるのですよね。

○山本委員：ブログですか？

○小野委員：というのを聞いたのですがそうでもない。

○山本委員：個人的にまちあるきのブログを立ち上げてという方がいます。

○小野委員：個人でいろいろ情報を発信していくという人がいますので、そういう形を広めていくと。

○市川委員：ごめんなさい、僕が言いたかったのは発信する人はいるかもしれないけど、受け取ってくれないと意味がないでしょうということだと思ったのですよ。どうやって受け取る人を増やせるかという。

○上田委員：それは無理だ。

○山本委員：自覚だ、自覚。

○上田委員：受け取れって強制するのはなかなか難しいから。

○市川委員：うん、難しいですよね。

○小野委員：例えば区報でぶんぱくのお知らせを出しているのですね。

○市川委員：それは何月号ですか？

○小野委員：昨年の９月号ですけど。でも受け取っても見てくれなければダメですよね。でも、出さないことには受け取るチャンスがない。

○市川委員：もちろんそうなのですよね。

○山本委員：すいません、区民の自覚がなくて。

○小野委員：まずは出すことが大事なんじゃないですか。

○山本委員：でも、ご近所さん、これ配るのも大変じゃないですか、町内会で。あれ大変な仕事なのですよ。「もう、なくそう」っていう声も出ていて。「私読まないからいらないわ」って言われた日は本当に困っちゃって、そういう声も。

○野口座長：また、さっきのブログとかツイッターと、こういう区報みたいなものと連動しなきゃいけなくて、例えばイベントをやるときに、そのイベントのためのブログを立ち上げるとかやっていけば、みんな癖が付くわけです。こういうイベントをやっているということは、そのブログが立ち上がっているのではないかとか。今はもうそういう時代で、何かイベントをやるのにポスター１枚でそれっきりということはほとんどなくて、最近はブログと連動して、今どんなふうに準備が進んでいるかというところから見せるという、そういうやり方が人々を惹き付けて、当日の本番に向けて期待が高まっていくというようなやり方も手法としてはあるので。だからブログ１本立ち上げたらすべて解決するみたいな、そういう話じゃなくてミックスですよね。ポスターも作らなきゃいけないし、ブログもやらなきゃいけない。その担い手になる人材も確保しなきゃいけないという、そういう人たちも意識を持ってもらわなきゃいけないという、そういう１つのものだけじゃなくミックスしていくというのが。後ほど事業例で確認するときにそのような議論もしたいと思うのですけど。

あと文章は先ほども言ったみたいに、事務局を中心に表現を統一したりとか。実は皆さんはよく勉強されているので、すっと読んで全ての用語はぱっと分かるのかもしれないのですけど。恐らく私の感覚で、私は大学で学生に教えているので、多分、大学生が読んでも分からない専門用語、観光を勉強している学生が読んでも１年生だと分からない専門用語が実は入っているのです。場合によっては誤解されちゃうかもしれない。観光まちづくりなんていうと、観光地をつくるのですか言われちゃったりする可能性があって。「観光まちづくり」というのは専門用語なのですけど、そういう用語は、もしかしたらちょっと言い方を変えるとか、場合によっては「注」を付けるとか、そういった形でちょっと工夫をしなきゃいけなくて。文章としては相当難しく書かれているというのが私の印象です。ですからこれをどういう方に読んでいただくかということもあるわけですけれども、できるだけほかの分科会の表現との整合性というのもあるのでしょうけれども。ちょっと難しい表現もいくつかあるので、それも含めて最終的には事務局で調整していただきたいと思っています。もし、この後お帰りになって気が付かれたら、ご意見シートがありますので、後ほど事務局に期限を区切っていただいて、お気付きの点があれば見ていきたいと思います。次、事業例に移ってもよろしいでしょうか。では事業例を説明していただけますか。

○事務局：事業例のご説明をさせていただきます。皆さまにいろいろとご議論いただきたいので、簡単にご説明をさせていただきます。資料第 10 号と書いてあるところでけれども、こちらが先ほどご議論いただきました骨子の現状や課題、そして基本的な方向を踏まえ、では具体的にどういうことをやっていったらといいかということを書いてあります。

まず柱の１、事業例(１)「文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ」、こちらの(１)が先ほどございました骨子の基本的な方向の(１)と対応してございます。柱１に関しては基本的な方向が４つございますので、それぞれに合わせて事業例を並べてございます。あとこちらの(１)のところの３番目と５番目にありますけれども、再掲と書かせていただいております。こちらについては、ほかの柱にも合わせて記載されているというものになっております。分かりやすいように両方とも再掲と書かせていただいております。

最初に柱１ですが、こちらは「まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出」、文の京の誇りとなる魅力を発掘し、その磨き上げをしていきましょうとなっており、まず(１)では、魅力の１つとして「夜景スポット」ですとか「文の京のキャラクター」または「まちの愛称」などを発掘していきましょう、その磨き上げをしていきましょうというようなことを書いてございます。

また４番目に「文の京ライフスタイルのイメージアップ」とございますが、文教施設がたくさんあったり、東京ドーム、それ以外にも歴史的なものがたくさんある、この文の京での暮らし、そのもの自体が魅力ではないかというところもありますので、ライフスタイルのイメージアップ

というような形で１つ入れてございます。
最後ですけれども、そういった個々の魅力とあとは全体的な文京区と、先ほど情報発信の話もございましたけれども、そういう魅力を全体的に高めていく、そういうキャンペーンを展開していきましょう、というような形で事業が書かれてございます。こちらが(1)になります。
次のページ「文の京を分かりやすく伝えるストーリー性ある観光コースづくり」ですけれども、区内にさまざまあります資源をうまく魅力的につなぎ合わせて観光コースをつくることで、より多くの方を惹き付けましょうという形になってございます。今回、こちらを細かく書かせていただいておりますけれども、１番目に歴史や文化から始まり、自然や食、映像や文学、ものづくり、建物といったさまざまなコンテンツごとに観光コースをつくるという形で書いてございます。またその次に、バリアフリーですとか外国人といったようなターゲットを特定する形の事業も、コースづくりに書いてございます。最後に隣接区と連携とございますけれども、文京区だけではなく区域をまたいでやるような観光ツアーをつくることによって、さらに魅力を高めることもできるのではないかというようなこともございましたので、このように書いてございます。
続きまして 13 ページの(3)、こちらは「学びの要素と連携した文の京ならではの新しい魅力づくり」と書いてありますけれども、やはり文京都市ということがありますので、最初にありますように、区民向け観光講座の開催、既に実施しております文京アカデミア、ミュージアムネットワークといったところを強調しながら事業を続けていきましょうというような形で事業になっております。ですので、今ありますアカデミアの講座に観光の視点を入れてレベルアップ、魅力アップをさせていくというような視点で、こちらの事業をまとめる形になっております。ただ、概要のところに※印で要検討と書いてございますけれども、こちらは観光の分科会で、ほかにも生涯学習の分科会とかございますので、そちらにも文京アカデミア、講座の話が出て来るかと思われますので、その辺りと調整が必要になってくるかと思われますので、こちらで注意書きを入れております。
次に(4)の「まちあるきを誘発する「文京ブランド」の構築」ですけれども、今お話がございましたように「観光グッズ」ですとか「文の京のブランドづくり」を進めていきましょうというお話がございます。また昨年度つくっておりました「食の文京ブランドの創出」ができておりますので、これをさらにうまく活用することで文京ブランドを強化していきましょうというお話ですとか、観光施設とか飲食店・小売店と連携することによってさらに進めていけるようにしましょうというような形の事業をこちらでは挙げてございます。ここまでが柱１の事業(案)として今出ているものになります。
続きまして柱２、こちらは「まちあるきや交流のための環境づくり」ということで、最初が「安全・安心でやさしいまちを実現する環境づくりの推進」ということになっております。こちらは区内に訪れた方が安心して区内を回遊することができるような環境をつくっていきましょうというところで、休憩できる場ですとか、トイレの整備、案内施設といったようなものをつくることに加えて、バリアフリー化を進めるとか景観の整備、または案内標識の統一といったようなところを掲げております。ただそういうハードだけではなく、地球環境にやさしい取り組みの推進ですとか防災や医療、また健康に関することといったようなことを書いてございます。これにより高齢者や外国人にとどまらず、誰もが安心して区内をめぐれる環境ができる、それがひいてはホスピタリティーにもつながっていくのではないかというところでまとめてございます。最後にまちあるきのマナーキャンペーンの向上ということで、先ほども少しご議論がありましたが、区民生活と共同をしていくためにということで、このようなキャンペーンも入れております。
続きまして 16 ページの(2)というところですけれども、こちらは環境づくりの中でも特に交通の部分の事業になってございます。ここで「Ｂ－ぐる」とか「レンタサイクル」も書かれておりますし、公共交通機関もございます。そのようなところと連携をしながら、乗り換えがなったりとか、区以外でもやはり事業者さんが進んでそういうところにやっていただきたいというようなところもありますので、そういうような交通面に関して書いてございます。
次、17 ページ目に渡りまして(3)に「区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり」があります。今申し上げました最初の２つは主にハード整備に近いですけれども、ここからはソフト面の

ことが書いてあります。イベントを推進をするというところで、最初にありましたように歴史や文化的資源を生かしたイベントの開催ですとか、ずっと続いております観光写真コンクール、また食をテーマにしたイベントですとか、さまざまなイベントで来訪のきっかけとなったり人々の交流を促すようなことをしていきましょうと。ただそのときには、やはり文京区らしさのあるもの、例えば歴史ですとか文化といったようなところを生かしながら事業をつくっていきましょうというようなところでまとめてございます。

次に(４)の「まちあるき等イベントの推進」ですけれども、そちらは特にまちあるきに特化したことを書いてございます。「観光の日創設」ということで、皆さんで一斉にまちあるきを開催したり、皆さんの意識をつくったり観光のまちというイメージなども高めるというようなところで、こういうものも入ってございますし、また建物をめぐるというところで、これはロンドンとかでやっているのですけれども、普段は一般公開していない建物をめぐるまちあるきイベントというオープンハウスのようなものなども事業(案)として掲載させていただいております。

続きまして 18 ページは(５)でＭＩＣＥの誘致があります。前回ＭＩＣＥの誘致のお話とかもご指摘でございましたので、まずは誘致、あとアフターコンベンションというような形で分けて書いてございます。ただ誘致するにもアフターコンベンションを進めていくにも、まずは区内にどういうような施設や資源があるのかをまとめるという意味合いで、最初にＭＩＣＥに関する情報のデータベースづくりから始まっております。次にＭＩＣＥの誘致の活動を推進するということで、先ほどもありましたように本区で開催するメリットをまとめて、それをもとに働きかけましょうというお話ですとか、情報発信をしていきましょうとか。あとはやはり大学とかがありますので、ここと連携しながら進めていきましょうというようなところとか、アフターコンベンションの話とかもこちらへ掲載をしてございます。ここまでが柱２になります。

続きまして 19 ページに柱３の「観光まちづくりのための情報発信」という形で事業を整理しております。ここではさまざまな視点で、タイムリーさですとか来訪者ニーズに配慮するとか、いろいろな形で情報を発信していくことが必要だろうというところで、まずは情報の整理、いわゆるデータベースの整理をしていきましょうという話、情報の視点として、２番目と３番目にありますように映像作品ですとか文学作品、または区内に伝わっている言い伝えというようなところとかも拾っていきましょうというような話ですとか、発信をするという形態に関して４番目にあるようなインフォメーションセンターですとか、ウェブサイドの充実、またはガイドブックの発行というような媒体も充実させていきましょうということが書いてございます。

次に、やっぱり発信をするに当たって情報代理店ですとか区民の方、または区外からでも文京区の観光に関心のある方、そういった方々とも連携していくということが効果的であろうという話もありましたので、さまざまな人と連携するという意味で 20 ページに留学生も書いてありますけれども、というようなことを書いてあります。

次は(２)の「ターゲットを明確にした効果的な情報発信の推進」というところで、こちらは(１)とも内容が近いところがありますけれども、区に訪れる方のさまざまなターゲットを想定し、どういうふうにしたらその方に届けていけるのかというような形でさまざまな届け方と、いわゆるフェノロジーカレンダーの作成とか、食をテーマにするなどさまざまな視点でやっていきましょう、というようなことが書いてございます。また、区民になかなかこういう情報が伝わっていないということもありますので、４番目に区民向け観光情報発信の強化というようなところも書いてございます。その下はターゲットを絞るという話で障害者の方ですとか、小さなお子さんを連れたお母さん世代とかも意識しながらやりましょう、というようなところが書いてございます。

21 ページにも外国人向けですとか、姉妹都市を結んでいるところがありますので、そういったようなところとかも連携しながら進めていきましょう、というお話でまとめてございます。21 ページの下のほうの(３)「メディアの有効活用による「文京区」の積極的なＰＲ」ですけれども、前回もありましたフィルムコミッションの設立・運営というようなお話ですとか、テレビや新聞・雑誌、ほかのさまざまなメディアと連携しながら情報発信を充実させていきましょう、というようなことが書いてございます。

22 ページ目が「情報通信技術を活用した情報発信の推進」ということで、こちらには主に携帯

端末を使った情報発信という形で書いております。先ほどありましたまちあるきをする方がこちらでは多いので、歩きながら情報発信できる。ということはやはり持ち歩きができるような端末ということがここの文京区では重要ということもありますので、携帯端末ということに絞って、こちらでは情報発信のことを書いてございます。

こちらで柱３が終わりで次に 23 ページ目に「観光まちづくりのための人材育成と体制づくり」という柱４について書いてございます。こちらでは主に区民や事業者などのホスピタリティーをアップしていくという視点ですとか、先ほどのインタープリターの方、事業者の方々、さまざまな方が活躍できる場づくりをしていく。そのために、まずは人材をレベルアップしていくというような話でまとまってございます。ですので(1)のところには先ほどもありましたが区民向けの観光講座の開催ですとか、アカデミアの充実といったようなとことが、皆さんに文京区を理解していただくという意味合いで書いてございます。(2)については、ではそういうふうに文京区のことを理解していただいていた方々、もしくは文京区のことを本当に愛してくださっている方々が活躍できる場をつくっていきましょうと。さまざまな団体がさまざまな形で活動できる場づくりをしていきましょう、という意味合いで書いております。具体的には区民や観光まちづくりをやっているような方々がイベントとかの企画・運営に携われる機会を増やすというようなことですとか、そういう方々のネットワークをつくっていきましょうというようなことが書いてございます。

続きまして 25 ページの(3)に「文の京全体としてのホスピタリティの醸成」とあります。これは前回もいろいろとご議論をいただきましたが、おもてなしの意識づくりを進めていきましょうということで、１番目と２番目には区民や事業者の方々におもてなしの必要性ですとか、どうしたらおもてなしの心が身に付くかという具体的な講座を開催するというようなことが書かれております。外国人の方とかが区内を回るときに困らないよう対応していきましょうというお話が３番目とか４番目に書いてございます。あとは外国人に限らず、歩いているときにお店に入ろうかなと思ったときに、このお店がどういう商品を扱っているのか分からないというようなところのご指摘等がございましたので、店頭への商品名の表示の推進といったようなところとかも書いてございます。

26 ページの上のところ、おもてなしの心というのは、小さいお子さんの時代からはぐくんでいくことが必要でしょうという話もございましたので、学校教育における学習機会の拡充というようなところを書いてございます。(4)こちらは最後になりますけれども「様々な主体が連携して取り組む体制づくり」とありましたように、まちづくりをする団体ですとか、区民や事業者といったような方々が活躍できる、またはこのような方々同士のネットワークをつくっていくというような形の事業をこちらにまとめてございます。事業は以上ですけれども、横に担い手とそれぞれの事業に書いてございます。今お話した体制づくりで言えば、行政・観光協会・大学・商店街・事業者・地域活動団体・区民と書いてございますけれども、今こちらに掲げてある事業を、具体的に誰が推進していくのか、今想定される担い手ということでこちらを挙げてございます。この担い手については、これから事業を精査していくに当たり具体的にそのような方々と議論をしながら、では誰が担っていきましょうかと精査させていただくという形で、今はすべての資料に一括でこの担い手を入れているという形になっております。説明は以上です。

○野口座長：ありがとうございます。この資料については何度か皆さんとも議論をしたり、やりとりもファックスとか郵便とかであったかと思いますけれども。最終的な確認のチャンスということですので、引き算する、ここから引くというのはちょっともったいないので、どちらかというと、最終的に今までの中で言い忘れていたとか、今回は付け加えたいということがあれば今日お話をしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○奥田委員：11 ページですけれども、１－(1)、３番目のまちの愛称づくりです。マップに活用するために名前を付けるというふうにあっさり書いてあるのですけれど。これは私が出したのですけれども、私は観光の日、もしくはウイークでもかまわないのですが、それとセットで考えていまして、愛称づくりというのは、１つの区民の意識醸成というのを１つの狙いにして、具体的

には文京区いろんなところに名前が付いているのですけれど、まだ付いてないところについては、歴史的な事実だとか、最近の出来事でもかまわないのですけれども、そんないろんな理由を付して区民がネーミングをする。それを客観的な選定委員会を設置するか、あるいは区民の投票で最終的に決めると。そこに区のほうが命名者と合わせて、その愛称をその通りなり坂なりに振る。それをマップに落とす。要するに観光の日を仮につくるのであれば、そのときのキックオフ・イベントみたいな感じ。それでワアーッと盛り上げるというのに非常に適しているのではないのかなと。そうすると、それぞれの地域の勉強をするし、それなりの理由を付けて出してくる。自分の名前も広がるし顔も出る。その代わり何年かしたらご破算にしてもう１回やるというような感じで、年がら年中みんなが参画できる。そういうイメージで書いたのですけれども、何となくマップに活用するために愛称を付けるって、非常に爽やかに書かれたので意味が通じないのではないのかなと。強いて言うなら２行目から初めて「路地や坂などの通りをはじめ、目印となるスポットに公募で愛称を付けるということによって」という一連の取り組みで機運を醸成して、さらに「まちあるきや観光マップなどに活用する」というふうにでんぐり返していってくれると、その感じがちょっとは出て来るのかなというような感じでおります。

それからいろんな企てがあると思うのですけれど、切り口が対象ごとにとか、あるいは情報発信だとか、いろんな切り口でやるために１つの素材が何通りにも扱われていて、現にそれぞれの項目でいくつもブッキングしているわけです。事業計画にするためにはできるだけ重複はえいやで避けて、どこかのカテゴリーに入れたほうがいいと思うのです。あちこちで再掲が出て来ると「どうやって事業計画にするの」というリアルな問題になると思うのです。

その観点から勝手に言わせていただくと、まず 12 ページのところですが、(２)の「ストーリー性ある観光コースづくり」上から１、２、３、４、５、６、というのは１つの項目にまとめたほうがいいのではないですか。それから下から２行目の「区民ならではの楽しみ方の発掘」これはアイディアとしてはもちろん素晴らしいですけれども、落ち着かせどころは３－(１)ぐらい、情報発信の強化というところでいいのではないかなと。続けてよろしいですか。

○野口座長：どうぞ。

○奥田委員：それから、あとはいいのですが、14 ページで「文京ブランド」が出て来るのですが、１番目の「観光グッズ」と次の「文の京ブランド」の創出というのは１つにまとめちゃえばいいのではないですか。同様に 15 ページで１番目の「休憩できる場の整備」とそれから１つ飛ばして「地域案内施設の整備」というのは、これも揺さぶって１つにしたほうがいいのではないのかと。

それから 16 ページにいきますと、(２)の回遊性のところで、これはちょっとよく分からなかったので補足をしていただきたいという意味合いなのですが、「Ｂ－ぐる」の充実で２行目から「Ｂ－ぐるの運行の在り方や情報発信などを見直すとともに、各種観光施設などと連携した事業を展開する」見直すとともに各種観光施設などと提携したってどういう意味なのかなと。例えばＢ－ぐるの中でイベントＰＲをやるとか、何か１個例を挙げないと、いくつも挙げる必要はないですが、１個例を挙げないとちょっと具体的なイメージが持てないという感じがしました。

それからどんどん進めますと、17 ページ(３)の「区民や来訪者の交流充実に向けた環境づくり」１番目の「歴史や文化的資源を生かしたイベントの開催」と、最後の５個目の「住民同士の交流を促すイベントの開催」はまとめて１個じゃないのかなと。それから２番目の観光写真コンクールですけれども、ちょっと余談で申し訳ないですが、観光写真コンクールというのは私から出たやつだと思うのですが。私のイメージは写真コンクールを盛り上げたほうがいいのではないのかという意味じゃなくて、その伝統工芸士に、例えば文京の名所図会を書かせたり、それを絵はがきにしたり、あるいは写真コンクールで優秀な成績を修めたやつを絵はがきに落としたりしながら、例えば区長の賓客用のギブアウェイだとか、小中学校の卒業式、あるいは旅フェアだとかプロモーションのとき、特に国内プロモーションだと思うのですけど、そういうときのノベルティーだとか、あるいは区民が区に入って来る、あるいは区から出て行くというときに持たせてやる、各町会の総会とかにもある程度蒔いてやる。若い人はメールで事足りると思うのですけれど、結

構年配者ってはがきや何か使うと思うのです。私なんかもそうなのですけど、私もできればはがきの余白やなんかに自分のまちの、うちはお城があるのですけれど、そういうのが入ったやつを買います。書くとこが少ないで済むから。結構みなが使うと思うのです。そういう意味合いで二次的、三次的に波及するので、みなが蒔いてくれるよというツールとしてどんどん渡せばいいじゃないかという感覚なのです。

ある区では切手を作っているところもあります。あんまり高くないと言っていました。1.5 倍ぐらいするかも分からないけどそれほどべらぼうじゃない。その代わり区の名所や何か書いてあって切手は必ず使ってくれますよね。もらえば必ず貼って使う。切手を先方が見てくれるかどうか知らないですよ。はがきだったら必ず見てくれるの。そういう意味合いだったのです。それで、この観光写真コンクールの開催は情報発信の３の(１)でいいじゃないのですか。情報発信の強化のところぐらいでもいいのではないのかなという感じがしました。

それから 18 ページ、ＭＩＣＥですけれど、１番目のＭＩＣＥに関する情報のデータベースづくり、情報を一元的に管理できるデータベースを整備する必要はないのではないのかと。現にそれほど文京区にはコンベンションの施設ってないと思うのです、ホテルも含めて。そういう情報は既にあるので、教育機関にそういう情報を提供してやればいいのではないかと。データベースというほど大掛かりに事を構えるのは費用効果の点で無駄じゃないかという感じがしました。それから次のＭＩＣＥの誘致活動、ＭＩＣＥ向け情報発信は１つにまとめてもいいのではないのかと。

それから 19 ページ「知名度向上に向けた情報発信の強化」ですけれど、１番目の「観光情報データベースの整備」と３つ飛ばして「観光ウェブサイトの充実」これは揺さぶって１つにすべきだろうと。それから下から２つ「区民特派員による情報発信」と「観光モニターを通じた情報収集・発信」、これも１つ項目で書き分ければいいのではないのかと思いました。

それから 20 ページの２番目の「ターゲットを明確にした効果的な情報発信」ですけれども、フェノロジーカレンダーはターゲットを明確にした効果的な情報発信というところでいいのか、あるいはその情報発信の１番のところに入れたほうがいいのか、どうなのかなと。私は、フェノロジーカレンダーは、それから表現でカレンダーを作成すると書いてあるけど、作成して区民に提供するというところまでやらないと、もちろん完結しないと思うので、そういう感じから言っても、そのターゲットを後ろに書いてあるような障害者とか子ども連れとかというのとは１つ書き分けて、１番の、根っこのところに持ってきてもいいのではないのかなという感じが強くしました。

それから飛ばして 22 ページ、観光地図の充実、情報発信の推進のところで観光地図の充実ですけれども、情報発信の上は携帯端末やなんかで素晴らしいことが書いてあるのですが、観光地図の充実辺りはごく基本的こととして３－１に書いておいていいのではないのかなと。

23 ページですけれども「文の京の魅力を伝える人材等の育成」で最後のところの文の京のイメージアップキャンペーン、人材育成のところに書いてあるけれども、１－(１)の根っこのところに持って来るのが落ち着きいいのではないのかと思いました。

それから 24 ページですけれども人材発掘と活用で上から５個目、「観光サポーター店」というのはトイレの例の話なのですけれども。これもほかのトイレと一緒にすべきだろうと。２－(１)、25 ページですが、上から６個目、地域案内施設整備、再掲、この再掲は２－１に既に根っこがあると思うので消しちゃってもいいのかなと。２－１のほうに整理すべきだと。それから最後の「区民ならではの楽しみ方の発掘」も３－１へ整理すればよろしいのではないかと。これで結構、まあいろんな分け方があるのでどれがベストだということはないと思うのですけれど、あまり散らばっているよりは、それぞれ何となく固まりになっている、できるだけ同じものが出てこないという、１つの片付け方じゃないかなと思います。以上です。

○野口座長：ありがとうございます。少し確認したいと思うのですけれども、最終的には、再三申し上げてるいみたいに、ほかの分科会がどうまとめるかにもかかわってくるので、今のご意見は確実に承りたいと思うのですけれども。考え方として再掲、つまり１つの事業で２つぐらいにらみを利かせているよというほうが、例えば最後の 26 ページは、隣接区とのネットワークの強化

以外は全部再掲ということで、ほかの部分と兼ねているわけですけれど。それがいいのか、それとも再掲は比較的なくしたほうがいいのか。そこら辺がちょっと難しいのは、観光は特に１つの具体的な施策というか事業が必ずしも効果が１つじゃないという、現れ方が。つまり一石二鳥というとちょっと軽々しい言い方ですけれど、何か１つの取り組みで２つ、３つの効果が出るというようなことを期待する場合もあったり、というようなこともあるとすれば、こういうふうに、実際上は重なっちゃうかもしれない。ただ書類上はどこかに具体的に張り付いていたほうがいいであろうという、そういうこともあるかもしれないので、それは、どうですか、皆さん。

○奥田委員：もちろん、全部ダブリを消していません。１つのものが裏表、三方向からそれぞれの機能を営むということはもちろん読み取れるので、それは再掲で残しているのですけれど、何方向からも見えるやつは、主として何なのだというところで取りあえず整理する、というのは行政計画にしたときに「どういうジャンルでもってやっているの？」というのが、ある程度主として機能するところで整理されてないと、後で、３カ年計画で年次振るとか何とかいうと、複数にまたがっているとやりづらいのではないのかなというのを感じたのですね。だから主たる目的に沿った形でできるだけ整理する。だけど均等に機能しているような事業については、それはもうしょうがないねという感じですね。

○野口座長：そうですね。だからその修復というか、そういうのがあるはずでしょうということですよね。それはこの資料では確かに再掲と書いちゃうと、どれがメインでどちらが再掲になるのかというのが確かに分からないので、それを含めてちょっとどういう、確かこの後いったん、この資料を最終的に整えて、全体の会議の前に１回皆さんにもう１回降ろすわけですよね。そのときにまた最終的にどうなったのかと見ていただきたいと思うのですけど。一応そのお考えというのは確かにそうだなと思いますので。

それでちょっと 18 ページの(５)、データベースというのはちょっと大仰じゃないかというお話だったと思うのですけれども。私が言ったデータベースというと、何かコンピューターを買ってコンピューターに入れるみたいなイメージなのですけど、データベースというのは「情報を一元化しましょう」くらいの意味合いなのです。つまり今どういう状態だと。仮にコンベンションをここでやりたいと思っている人がいても、例えば食事はどこで手配できますかとか、そういうことを全部ばらばらのところに聞かなきゃいけないので、どこか１個所、そういうコンベンションを扱うような情報を一元化しているところが、常に情報をアップデートして、いつでも問い合わせに対応できるような体制にしましょうという意味合いでのデータベース。それは人間がやっても、コンピューターがやってもいいのですけど。そういう情報の一元化をしましょうということなので、データベースというと、スーパーコンピューターみたいなのを買ってやるみたいなイメージになっちゃうのですけど。そこまでのイメージではなくて、散らばっている情報を一元化しましょう、ということがデータベース的にという、的というのを入れたほうがいいかもしれませんが、そういうことを意図していると、ここには入れたのですけれども。

○市川委員：これ、本当はアフターコンベンションだけのことを言っているのですか。それとも全部言っているのですか。教育機関・コンベンション施設・宿泊施設・交通・飲食店、どっちを言っているのですか。

○奥田委員：コンベンションをやるところ、アフターコンベンションでお楽しみができるところというところで、それからまた交通だとか、また日々のアフターファイブの飲食店だとか、手広く載っけようというイメージですよね。

○野口座長：載っけるかどうかは分かりませんけど、情報を集めるということですね。一元的に管理しようという、発信するかどうか、発信の仕方はネットなのか、事務局があって電話受付するのか、それは分かりませんけれども。いずれにしても散らばっている情報を一元的に管理すべ

きという話ですよね。

○小野委員：前回のこの場では、例えば「仕出しをしてくれるところありますか」に対し観光協会でぱっと出す。それから「飲み屋ありますか」と言われると１枚ペーパーを出すとか、何かありますかというと、それはこれですと情報が集約されているというような感じですね。

○野口座長：そのときに観光協会さんは観光に寄っちゃうのですけど、いわゆる会議みたいなときに「貸し会議室ですか、今お調べします」ということができるような、そういう情報を一元化。貸し会議室で、途中でお昼食べなきゃいけない。お弁当も取りたいというと、今後ワンストップでできるような情報を発信するかどうかは別としても、少なくとも情報を区内から集めてくるということは誰かが責任取ってやるべきじゃないかということをここで書いて。データベースにするというと、何か別のイメージにつながっちゃうのですけど。ファイリングするでもいいのですけど。ここで言っていたのはそういうイメージなのですけどね。そういう課題があるのではないかと。仮に文京区にポテンシャルがあったとしても、情報が散逸していると難しいのではないかという印象を与えちゃうので。情報を一元化しておくと、会議と仕出し弁当が２つセットになっただけで会議の実現性というのがぐっと高まると思うので、そういうようなイメージですね。

○市川委員：そこで言っている一元化というのは一個所でという意味ですか。それとも。

○上田委員：ワンストップでしょう。

○野口座長：ワンストップですね。

○山本委員：要は一元管理するということは、何かを変えたらすべてが変わらなきゃいけなくなるので、１つ管理するのは楽ですけれども、そのものはどういうイメージなのですか。

○野口座長：いろんな考え方があって、例えば。

○市川委員：一元っていうといろんな意味になっちゃうので。

○野口座長：私がイメージしていたのは、本当はコンピューターで管理するのが一番いいと思うのです、情報を変えやすいので。ただ現状はそこまで行っているかどうか分からないので。例えば飲食店の組合さんが、そういう資料を提供するとか、それは紙の資料かもしれませんけど。でもいずれにしても、それが一個所で手に入るという、そこに来れば取りあえずその会議とかイベントをやるための情報がそこに来れば集まるというようなイメージです。

○市川委員：一個所というイメージですね。

○野口座長：一個所、はい。

○奥田委員：大した情報量じゃないと思うのですよね。

○野口座長：そうですね、今のところは。

○奥田委員：東京ドームホテルか椿山荘かフォーシーズンズか、あとはここを使うか、会議室としては。あるいは後楽園ホールだとか、文京区だけに限ればですよ。その周辺の飲み屋だとかアフターファイブの食い物やだとか、そういうのはあっという間に集まるでしょう。

○事務局：そうですね。

○奥田委員：東京ドームホテルは持っていると思いますよ、フロントで。だからそんなに大それた形でなくて丁寧に提供する仕組みをつくるぐらいの気持ちでいいのではないのかなと。

○小野委員：ここに出ている事業名というのは、本当に皆さんからいただいたやつと、あとこんなのもありますよというのを前回お出しして、それをまた出したという感じなのです。ですから、まとめたり、名前を替えたりというのはこれからやっていかなくてはいけないのです。それはほかの分科会でどのレベルの事業例で出て来るかによって変わってくるという状態なのです。ただ観光の場合はかなり具体化されていますので、今は出していますが、まとめ方によっては、変わってくると思います。

○市川委員：すいません、じゃ、前回観光資料の第８号を基にこの 10 号を作られたのですよね。

○事務局：そうですね。

○市川委員：８号で落ちている内容はないということですか。

○事務局：いや、落ちている内容がないというか、何かを結び付けて、という感じで落ちているのもあるかもしれません。さっき奥田委員のほうからも、私が言ったのはなくなっているというふうにちょっと、すいません。

○市川委員：ここから落ちているのはなぜ、要は当然みんなこの資料の第８号って持っていると思うのですね。ここで落ちたのはなぜなのとか、ここに入ったのはどうしてなの、それだけでよかったのではないのかとは思うのですけど。

○小野委員：落ちたのって結構あります？

○事務局：そんなにないです。そうですね。言い回しの段階で少し意味合いが変わってしまっているように思える部分だったり、本当にたまたま見落としている部分とかもあるかもしれませんので、逆にこれを見落としているよとか。

○市川委員：見落としたのか、見落としじゃないのかこっちは分からないわけですよ。

○事務局：読んでいただいている中で、言い回しを変えたことによって落ちたようになっている部分もあるかもしれませんので。

○野口座長：原則は削ってないということですね。

○事務局：基本的には削らないという方向で進めていますので、さっき奥田委員からありましたように、さっきの観光の日のお話とか、こういう意味合いで書いたのです、ということを逆にご指摘いただければ、それはなるべくまた含ませるような形で修正をしようと思いますので。

○野口座長：むしろ削るどころか、これを作るとき、私もまた頭ひねって付け加えたのもありますので、引き算するというような方向性はそもそもないです。むしろ増えているというほうが実際のところで。

○市川委員：だからどうして増えたのとか、なぜ減ったの、落としてないというのならなぜ、こ

の分増えました、増えたのはここでこういう理由ですというのが分かればすっと。第８号を見ながらだと分かりやすかったのですけど。

○野口座長：もちろん、それをご覧いただいている前提だったのですけれども。実際にこういう形で、本当に先ほどから再三申し訳ないのですけど。何かほかの分科会さんとのバランスというのもあるそうなので。いずれにしても現状ではこういう体裁のものを考えているので、この体裁になって今見ていただいて、この体裁になっちゃうと最初に言ったニュアンスとちょっと違ってきているよ、というようなことはもちろん今直さなきゃいけないですではないとか、そういったことは、まさにこの資料になって初めて議論できると思いますので。そういった意味ではこれが最終的にこの分科会の結論として出ますので、途中のプロセスはほかの分科会の人に説明するチャンスは全体の会議でもありませんので。ですからこれの最終的なアウトプットになりますから。これが皆さんのほかの内容を反映しているかという視点で見ていただきたいなと思うのですけど。

○市川委員：ということは担い手というのは、この人たちが、と読んでよろしいのですか。

○野口座長：そうです。この人たちが担い手ですね。

○市川委員：例えば１－(１)の文の京の誇りとなるまちなかの魅力、発掘と磨き上げ、これは全部、例えば「区民が」でいいのですか。

○小野委員：はい、「区民が」になるものもあります。

○市川委員：例えば。

○小野委員：「区民が」じゃなくて「行政が」っていう。

○市川委員：例えば「区民が」というのはどれになるのでしょうか。

○小野委員：事業のやり方によって変わってきますよね。

○市川委員：もちろんそうだと思いますけど、想定されているのはどこでしょうか。

○小野委員：想定されているのは、すべてなりうる可能性があると今は思っていますけど。

○市川委員：ということは、例えば１番、区民が区内で夜景が奇麗に見えるスポットを、区民が区民などからの募集などによりやるということですか。

○小野委員：例えばお祭りの実行委員会という方たちがいますけど、その方たちも区民の集まりで、人を呼ぶために夜景スポットみたいな夜のお祭りをやってみようと。そういうときに情報提供してもらえばというのも考えられるので、今のところ行政としてはいろんなことが考えられる。

○市川委員：でも、当然行政はそれに対して吸い上げるのですよね。

○小野委員：行政が全くないということは多分ないと思いますので、いろんな絡み方が発生しうると思います。

○野口座長：いやいや、そうとも言い切れないですよね。全くかかわらない可能性もあると思うのですよね。民間と区民の人たちでやるとかいうことも十分あり得るので、ただ気を付けたいの

は、例えばここに書いてある事業名が行政だけでやるとか、区民だけでやるということは現実問題あり得なくて、必ず組み合わせになると思うのです。

○市川委員：誰が責任者かということを僕は問いたかったのですけれども。

○野口座長：それはやっぱり事業を実際どうやるかによって、お祭りなんか逆に行政にくっつかれるのが迷惑だというお祭りもあるでしょうから、それはあんまり厳密にしないほうがいいよと。いろんなお祭りがあると思う。むしろ行政が音頭を取ってやったほうがうまく行くイベントもあると思うので、それはケースバイケース、これは関係者というか、かかわる可能性のある人たちという意味ですね。

○市川委員：ステークホルダーではないですよね、でも。すべての。

○奥田委員：担い手というのは、だいたいこんなところかなと見繕って書いただけでしょう。

○事務局：そうです。

○奥田委員：事業が決まれば、ディテールが決まれば誰がやるか、誰が金出すか、行政はどこまでやるのだというのは細かく切り分けるわけですよね。ただ、今伺えるのはこんなところかなというふうに出しているだけの話ですよね。

○事務局：はい、そうです。

○野口座長：実際に行政側としてお金を出すだけという可能性もありますし、もっと極端にいうと、後援で名前出すだけという可能性もあるので、そこまででいうと、じゃ行政は電話取ったのが仕事かという話になるので、それはもういろんな仕事がありますので、ここでは、厳密にこれは何パーセント行政で、何パーセント区民でいうところまでは決められないだろうと。

○上田委員：それはやはり区民のほうで判断することでして、行政の判断するところじゃありません。でもイベントをやるには必ず行政は絡みますよ。お祭りでみこしを出すにしても警察の道路使用許可を取らなきゃなりませんから、だけど監督には来ないでくれと。うちのまちはいつも白山通りを信号３回止めますから、みこしを出して。これをやると必ずクレームが来ますから。だけどみんなそれが楽しみでやっていますけどね。

○小野委員：警察、消防すべて含んで行政と言っている、いろいろ出したのですけど、余りにも細かくなるのでくくったのです。

○上田委員：区役所という意味だけじゃないですけどね。それに関連する準行政的な面、例えば民生委員会とか消防団とか、そういうのはちょっと行政とは離れていますけど、そこの協力、これはかなり緩やかな連携ですから。だいたいそれらの人は区民の仲間ですからね。

○野口座長：あといかがでしょうか。入れ忘れている、付け足したいなというのがあれば。

○市川委員：奥田さんが今ご指摘された内容はそれなりに反映されるということになるのですか。

○奥田委員：後でご検討いただければいいですよ。

○小野委員：ほかのところのまとめ方を見て、本当に細かく分けているようであれば、まさに休

憩場所の整備とかトイレの整備、これなどは一緒でもかまわないですから、ちょっと名前を変えて、まとめるという作業を行います。

○市川委員：多分整理化するのは無理だと思うので、ある程度冗長してもしょうがないと思いますけど。

○小野委員：ただ、出ている状態を皆さんにお見せして、これをまとめたやつをまた見てもらうという感じだと思います。

○野口座長：その作業は今すぐここでできないので、入れ替えたりする作業はできないので、取りあえずご意見を伺って事務局で１回もんで。

○市川委員：１個だけよろしいでしょうか。19 ページに奥田さんのほうから観光情報データベースの整備と観光ウェブサイトの充実は１つでいいのではないのという話が出たと思いますが、僕はこのまま分けておいてもいいのかなと思いました。手法そのものが違ってくるのではないかと思うので。これは私の個人的な意見ですので。

○野口座長：その観光情報データベースの整備というのは、さっきの私が再三言っていたＭＩＣＥで情報一元的にたくさん集めておいたほうがいいだろうという、どちらかというとその情報を吸い上げるほうの話で、ウェブサイトの充実というのは情報発信していくほうの話なので、それで一連とつながっているわけですね。情報を仕入れないと出せないので。

○上田委員：だけどＭＩＣＥの情報一元化ってできるのですか。

○野口座長：熱心にやっているところはやっています。やらないとできないので。

○上田委員：うちの会社で今絡んでいるのは学会なのです。応用物理学会という学会があって、今年は長崎大学でやるのですけど、毎年夏休み、春休みに大学の教室を使ってやるわけです。800～1,000 人位、全国から集まります。それで縛りがもの凄く強い、例えば東京大学の場合は壁にセロテープやポスターを貼ってはいけないとか。そういう情報が全部入りますか一元化して、大学別で。法学部３号館は土足で入ってはいけないとか、そういう細かいやつがいっぱいあるのですよ。大変なのです。

○野口座長：実際に熱心にやっているところは、そこまで情報を取ります。

○上田委員：はい、それをやらないと使えなくなっちゃう。

○野口座長：例えば、ここはお酒は出せませんとかも全部基本的には情報集めてきます。ただ現状、今の文京区さんの感覚ではそんなの実際いらないのではないか、確かにそうかもしれないですけど、ここ 10 年間の話なので、ここに出す話は。もしかしたら、そういうことが熱心になるかもしれないので、そういう意味では入れておいて、一個所に情報があったほうが、つまり文京区と他区が比較されたときに、外部の人から見て、それはワンストップで情報が集まったほうが便利だという基本的なことなので、これでいきなりそういった情報が精査されてコンピューターのシステムでできるとか、そこまでは今のところは想定してないと思いますが、実際問題ＭＩＣＥをやるといったときに情報が一個所で集まらないと、逆にそこは無責任というか、やっていることにならないと思うので。開催したい人がいろんなところを駆けずり回らないとできないというと、ＭＩＣＥをうちでやりませんかと言っていることにほとんどならないので。

○上田委員：ほとんど駆けずり回っています。

○野口座長：そうなっちゃうと思うのです。

○上田委員：ここに載せているのはコンベンションホールを相手にしているような形で、公共の施設を使った場合の細かい縛り、そういうものを一元化するのは相当情報を集めないと難しいですよ。

○野口座長：そうですね。だから実際そうやらないと、東京大学さん駄目なら何とか大学さんにしましょうということが、本当はコンシェルジュみたいにＭＩＣＥのよろず相談受けられますというような、そういう体制ができていると理想的なのですけど。そこまではいきなり行かないので、まずは情報を一元化しようと。一元化って一個所に集めましょうということですね。

○市川委員：今おっしゃったコンシェルジュみたいな人つくるというのはここに書いたらまずいんですか、10 年計画で。10 年じゃ難しいということですか。

○野口座長：人をつくる、コンシェルジュと言っちゃうと、人になっちゃうのですけど、そういう機能ですね、データベースの機能ですね。

○上田委員：ワンストップにそこに情報を集めるということですから、大変な作業になりそうだなと思って。

○野口座長：そうですね。だから最初はもしかしたら行き当たりばったりで、今おっしゃったみたいな、東大が駄目だったらどうしようかというときに、それで集めていってどんどん情報が増えていくのかもしれませんし、必ずしもみんなが善意でバッと情報提供してくれるとは限らなくて、取りに行かないと分からないこともあると思うのですけど。

○上田委員：最近、大学も法人化されたりなんかして規正が緩んでいますけど。

○野口座長：大学は今、土日に施設を貸出したい気持ちがすごく強いのです。それでお金を稼がないと、昔みたいにお国からお金がいつももらえるわけじゃなく、自分たちで職員を食べさせなきゃいけなくなっていますので。そういう意味では、特に国公立を中心に遊休施設というか、土日使ってない施設を積極的に貸し出そうという気持ちがあると思いますので、もしかしたらそういう意味でのデータベース、情報収集と言ったほうがいいかもしれませんが、情報収集を積極的にやるべきかと思います。

○奥田委員：文京区に大学はいくつあるのでしたっけ。18 でしょう。そこが学会かなんを何年かに１度やるよと、国内学会でも国際学会でもいいのだけど、国際学会だったらさらに緩慢な周期でやるでしょう。そのときに今我々が議論しているのは受け皿文京区という形で、文京区の範囲内で施設だとか会議場だとか、あるいはオペレーションをやる業者だとか、設備だとか機械だとか、装飾とかもちろんあるし、後で印刷とか、翻訳とかそういうのもあるけど、文京区だけの範囲で文京区にこんなにあるよと提供したときに、その 18 だったら 18 の大学で久方ぶりに学会をやろうと言った人が、本当に文京区だけの範囲のキャパで本当に学会をやろうという気分になるかなというのを現実に考えちゃうのです。ただ、そのコンベンションだとかアフターとか、５時以降だとかいうのは、例えば東京ドームホテルに泊まったら、やっぱり飯田橋辺りで飲むとか、やりますよね、手分けしてみんなで行って、飯田橋に行くやつもあるし、お茶の水のほうに行くやつもいるとか。そこら辺の広がりはあるのだろうけれど、本当に学会を設営して一定の成果を出すと。学会は一定の成果を出して学説を展開するというような大きな仕掛けをするときに「本

当に文京区だけの器で、ものを考えてくれるか」というのが原点ですよね。だからそこにあんまり大きな体力を消耗しないほうがいいのではないかと。

○野口座長：必ずしもその問い合わせというのは、コンベンションをやりたい人が来るだけじゃなくて、本当は東京都だとか国とかのコンベンションを扱っているところに情報を挙げていくということもしなきゃいけないわけです。つまり文京区が過去に出してきた情報で調べたら、もうそのお店はないとか、ホテルないとか、施設はないとかとならないように、常にその新しい情報を。つまり今おっしゃったみたいに文京区の中で収まるとは限らないですよね。宿泊は豊島区に行くかもしれない。どこに行くか分からない。だけど、いずれにしても例えば東京というフィールドで考えるときには、少なくとも文京区の情報は常に最新だよねという、つまり東京都のほうのコンベンションのセクションにちゃんと伝わっているという、そういう体制づくりというのは必要ですよね。そういった意味でも直接一般の利用者に情報提供することだけをイメージするわけではなくて、コンベンションにかかわる情報を常にどこでも出せるように。最近は旅行会社が一生懸命コンベンションをやっているとかで、旅行会社に問い合わせが来たらぱっと答えられるようにするとか、そういうＢtoＢということもイメージとしてはあったのですけど。この枠だけじゃそこを表現しきれないのですね。

○上田委員：地方から来る人は東京で学会があるからと、文京区であるからとは考えていませんから。

○野口座長：そうですね。多いと思いますよ。文京区さんでやっている学会というのは、小さいもの、例えば東洋大学さんだけで私年に２回も３回も出掛けますから。

○上田委員：夏休みはすごいですよ、今。

○野口座長：それはもう本当に大きなものから小さなものまでいろんなレベルでやりますので。

○奥田委員：東京ドームはインセンティブがばがば入っていますよね。

○上田委員：でも交通の便がよくなりましたからね、それで地方に出した大学の校舎を、また中心部に戻したいという、中央大学とか、東洋大学さんもそうです。跡見さんも埼玉のあそこから大塚に戻しましたでしょう。

○市川委員：それで確か 19 校になったと思ったのですよ。

○上田委員：それで 19。

○小野委員：いや、18 です。

○市川委員：それで 18、僕の勘違いですね。

○野口座長：後いかがですか。先ほどから言っているように調整はこの後やりたいと思いますけど。

私から１つだけ、これはどこに入れるか、最後の４番目のところだと思うのですけれども「観光まちづくりのための人材育成と体制づくり」要はこのビジョンがありますね。このビジョンがあって、さらに今回皆さんで具体的な事業(案)を議論していただいているわけですけど、こういうビジョンとか、こういう計画骨子とか、これ自体を定期的に見直す体制もつくったらどうかと思うんです。国で言えば観光政策審議会ですけれど、つまり観光の政策決定を観光に絡んだ政策決

定の諮問機関であったりとか提案機関であったり、もしくは具体的な事業を決めていくような組織、体制といいますか。そういうものをつくりましょうということも入れておくといいのか。つまり、やりっ放しになる可能性もあるので、特に観光の場合は先ほどからいろんなお話が出て、担い手が多岐に渡っていますので、どこかが中心的になってやるということは難しいと思うのです。そうするとそういう政策について議論する、提案していくというものを書いておかないと、誰かが音頭を取ってやるというのは考えにくいので、特に文京区さんの場合、観光課というのがないので、しかもほかの観光を一生懸命やっているところでは産業部観光課とか商工観光課とか、そういうところがやっているので。そういうことからすると、わざわざここにビジョンを見直す体制をつくりましょうということを入れておいたほうがいいのかなと。それが私のご提案です。

○奥田委員：今度のアカデミーはローリングするのですか。３年ぐらいでローリングする、というのは決まっているのですか。

○小野委員：事業の規模というか、事業数によるのですが。

○奥田委員：いや、計画そのもの。

○小野委員：はい、見直していくようになっています。

○奥田委員：３年ぐらいで転がしていくわけですか。

○小野委員：３年、そうですね、実施計画自体は今のところ３年というふうに考えています。

○市川委員：だからローリングするのはもっと短いターンじゃないのですか。

○奥田委員：毎年ローリングする。

○小野委員：協議会をつくってその中で検証をしていくという形になる予定です。協議会でどう進めていくというのはまだ決まっていませんが。

○奥田委員：だから全体をどう転がしていくかってまだ決まってないわけですね。

○小野委員：はい。

○野口座長：今回はこれ（文京区観光ビジョン）に基づいて議論しているわけですよね。実はこれももう数年経っちゃっているので、ですから恐らく、もしかしたら今やったら数パーセント違うのかもしれないです。日々変化しているので分からないですけど。そういう意味では、そもそもこのビジョンにのっとって今回いろんな一連の議論だとか資料を作ってきましたので、どちらかというとこっちですね。ビジョンを見直す、例えば５年経ってみたら思ったよりＭＩＣＥはもっと力を入れなきゃいけなくなってきている、という可能性もあるので、もしくはまちあるきは現実的に難しいねとか。いろんな可能性があるので、そういう意味では少なくともビジョンを見直すような機会はつくるべきかなと。予算化しておかないと、実はこういう会も開けないのです。見直しましょうと言っても、会議をするためにもお金が掛かるので、それも予算化しておくべきかと思います。

○上田委員：ホスピタリティーの問題ですけれど、うちの区商連という商店街の中で来訪者の利便性を高めるためのインフラづくり、それを今研究しているのです。今、会員が約 1,400 店舗ありますが、そこにファイナンスを入れたり、できれば銀聯(ぎんれん）というのですか。中国のク

レジット、それも今ちょっと引っ掛かってきているのです。そのインフラをつくっていきたいと思っています。その辺をどこかで入れられたらいいと思っていたのですが。文京区のお客様の利便性を高めるというような文言だけでもいいのですけど。そういう利便性を高めるかというのはいろいろありますから。そういうのが入ってくると私たちもちょっと元気が出ますので、なるべく早めに整備をしていこうと思っていますので。これは今年の秋の最初のテーマなのです。

○野口座長：おっしゃるとおりで、そういう意味での利便性というか銀聯カードなんかまさにそうなのですけど。そういうことを、もしかしたら推進することで増えるであろう、今はビザの申請が 10 倍近くになっているという話ですけど、中国人観光客がもしかしたら来るかもしれないというので、そうすると経済政策的にかかわるわけですよね。その辺がどうなのでしょうか。

○上田委員：隣接区との連携なのです。秋葉原というのがそばにあるじゃないですか。

○野口座長：だからそういう意味では経済政策としても取り組むべきことですよね。

○奥田委員：私、今あまりよく聞こえなかったけど、何をやりたいとお考えなのですか。

○上田委員：今、クレジットをやってない会員がかなりいるのですよ。だから取りあえずクレジットを取り入れようと。全体にクレジットの端末を入れようと思っているわけです。そのために今クレジットのパーセント、取扱手数料が結構高くて、例えば飲食の場合は７パーセントですか。

○市川委員：高いですよ、それ。

○上田委員：一般ですと４パーセントとか、それで共同組合でやっているところで 3.5 パーセントとか、もうばらばらなんですね。なるべく一式低いパーセントでやれば、例えば飲食の場合７パーセントは４パーセントになるよといったら、もう半分近くになりますからね。

○市川委員：そうです、７パーセント高過ぎますよね。

○上田委員：そうすると、組織の拡大にも通じますし、いろいろと利便性も高まるというので、今それをちょっと手掛けているわけです。

○野口座長：その点、直接的に経済政策的な臭いがするものを入れていいのかというのは、最初からの感覚として大丈夫なのかという。

○上田委員：それはアカデミーに観光を入れていることがそもそもの原因じゃないですか。これは観光にはなじまないよと初めに言っていたじゃないですか。

○奥田委員：初めから観光は経済政策の意味合いがあると先生おっしゃっていましたよね。

○野口座長：ええ、私はそういうつもりで。そうすると、もしかしたら全体会議の中で違和感をお持ちになる方がいるのではないかと。最初におっしゃった方の中には「まさかボランティアガイドを育成するなんて言わないでしょうね」なんておっしゃった方もいるのですけど。

○上田委員：あら、それは育成したいですね。

○野口座長：そういう感覚分かるのですよ、外から来る人ということを普段イメージしないで生活されている方もたくさんいますので、それが急にお客さんをお迎えしなきゃいけないなんてい

うふうに思っている、そういうことはやめてね、みたいに思っている方もいることは事実だと思うのです。ですから、そういう意味では経済的なこととか、おもてなしの精神とか、そういうのに抵抗を持つ方もいると思うのですけど。アカデミーになじまないとお考えになる方もいるかもしれないので、率直に申し上げると、私は最初からそっちのほうで行きたいなというか、必ず経済的な裏付けを取りながらやりたいと、私はどちらかというとそういう立場の人間なのですけれども。ただ文京区さんの場合は両方だと思うのです。文化的な側面もあるし経済的な側面もある。再三申し上げているように、今すぐ観光でご飯食べていかないと困っちゃうというところまで、全体としては切羽詰まってないというのがあって。地方都市なんてもっと切羽詰まっているところがありますので、そことは状況が違うでしょうということがあるのですね。例えば地方に行くと、来月からバスがなくなっちゃうので署名運動しているところがあるのですけど。「路線バスがなくなっちゃうからどうしよう」とか。そういうのと比べると、「また地下鉄ができるらしいよ」というのとだいぶ違いますので。そういう状況の差はありますから、そこで今、銀聯カードを区がバックアップしましょうなんていったらすごく面白いと思うのですけど。入れましょうか。

○上田委員：そこまでは、だけど一歩踏み込んだのではない。

○奥田委員：ビジョンを出したときに社会的効果と経済的効果で並べて立てているのだけど、それをオープンにしたときに区民からハレーションか何かあったのですか。

○小野委員：なかったですね。

○奥田委員：全くないのでしょう。

○小野委員：はい。

○奥田委員：だから飲み込まれているのですよね。

○小野委員：はい。ただカードに関するものというのは、ここには入ってないです。目新しい感じです。

○上田委員：だからインフラ整備だって言っているじゃないですか。いろんなインフラがある。

○奥田委員：でも例示を入れなきゃ分かんないですよね。漠然インフラと言われても分からない。読んでいて分かんないと思う。

○上田委員：いいのです。我々が分かっていればそれでいいのです。

○奥田委員：これパブコメやるのですか。

○小野委員：やります。

○奥田委員：やるのでしょう。言われますよ。ちっとも分かんないと。

○上田委員：具体的に何かと言われたときに言葉で発信すればいいじゃないですか。こんなことも、こんなこともありますよって。

○野口座長：中心市街地の活性化と、こういう都市的な観光の場合、必ずしも外からお客さんが来ることばかりじゃなく、中心市街地の活性化というのは、やっぱりこのセットなわけですよね。

だから地元の商店街の人とか商売している人たちの活性化というのと、この会議の冒頭に言いましたけど観光と言うと、外からお客さんが来て「いらっしゃいませ」とやることばかりイメージしちゃうのですけど、そうじゃなくて集客交流っていうと、それは区内の人たちもお客さんだし、区外の人たちもお客さんだし、それで交流することという、そういうイメージを持つので、集客交流という言葉に変えると、銀聯カードみたいな話というのもすっとなじむのかなと思いますし。

○奥田委員：いち早く銀聯って書いたのは、やはり結構パンチが効いていますよね。

○野口座長：そうですね。

○奥田委員：そこは記事になるの。文京区としては。

○上田委員：通産省で中小企業支援センターというのが去年の法律で立ち上がったのです。１年目なのですけど。そこで新しいクレジットをつくる中で、今銀聯カードは三井住友しかやってないと聞いています。

○野口座長：そうです。でも、もともとのあの全体の会議での、ほかの方たちのイメージと、たまたま私がこの観光の分科会の座長をお引き受けした、実はその観光といっても私みたいに、いわゆるビジネス面じゃなくて文化面ばかりやっている人、歴史やっているとかという人もいるのですけど、たまたま私がお引き受けしたということもあって、本当だったらそういう銀聯みたいなことも入れたいのですけど。ただ、もしかしたら難しい部分のあるかもしれないのです。どうですか、この中でもしかしたら店頭への商品メニューの表示の推進とか、これはどちらかというと文化的な意味もありますけど、つまりそうしたほうがたくさん入りますよという話なので。

○上田委員：これも、インフラなのですよ。お客さまが入りやすい環境をつくっていく、環境づくりですから。やりやすい決済の環境づくりですよ。すべて環境づくり。

○野口座長：だからそういうことを、ちょっとどこか入れてもおかしくないところに、例えば手荷物一時預かりサービスとか、ここに「……など、買い物環境の整備」とかっていう言い方にすると銀聯の話も入れられるかもしれないので。回遊性を高めるとか。

○奥田委員：キャッシングだとか合わせてカードだとかでまぶしておけばいいのではないですか。

○野口座長：そうしましょうよ。ここにちょっと入れて。

○上田委員：単に「クレジットに対応していく」というような形でその中にいろんなクレジットがありますから。だからすべてのクレジットに対応していくというような文章をちょっと入れていただければ、商連としては本気になってやりますから。こういう指針が出たのだから頑張ってやるしかないだろうと。

○小野委員：荷物一時預かりサービスも名前は違うふうにしますので、それも含めて。

○奥田委員：カタカナなのですか。

○小野委員：いえいえ、何か。

○市川委員：宅配サービスも入れるのですよね、そうすると、入っちゃうのですか。

○野口座長：購買意欲の向上とか。

○小野委員：あってもいいかもしれないですね。くるめた感じの。

○市川委員：おばあさん、おじいさんを送り迎えしている商店街もありますよね。

○山本委員：ええ、そうですか。

○野口座長：本当だとやっぱりこの分科会は区民の公募の方と、それから団体からの推薦の方といるので、団体からの推薦の方から強くそういう要望があったというと私も「そういうことだったのです」と言い訳がしやすいので、非常にありがたいのですけれども。同時に区民の感覚からするとこうだよ、とそういうもののバランスを取って最終的にはできていくという。

○奥田委員：じゃあ、後で東商に聞いて。

○市川委員：カードを、キャッシングを入れるのはどうかとちょっと思っているのです。クレジットできたら、全然問題ないのではないのかと僕は個人的には思っていますけど。

○野口座長：海外のお客さまって、キャッシングができないと困っちゃうのですよ。いわゆる現金を持ってこない、クレジットカードしか持ってこないので、日本のＡＴＭは海外のカードが使えないということで有名なのです。だから来ないという人もいるぐらいなのです。

○市川委員：でもシティとかは全部、あ、そういうとこじゃないから。

○野口座長：シティみたいなおしゃれな銀行が全国にあればいいんですけど、ないので。

○市川委員：シティは今提携していませんでしたっけ。

○野口座長：できないところが多いのです。そのブランドも限定されていたりとかして。やっと最近少しずつ今おっしゃるみたいな、機能が付いたＡＴＭも増えているのですけど、まだまだそういうのができなくて、日本は不便だというのは結構有名なのです。

○市川委員：でも、キャッシングは銀聯のカードで使えるかどうかだけなので、契約した人がこの人にキャッシングの権利を与えるかどうかだから。

○野口座長：ええ、クレジットカードで日本の現地の場合は円ですね、円を引き出したいニーズが結構あるので。

○奥田委員：中国の人や台湾の人が、ぜひ日本でラーメンが食いたいとか、中国の人は生ものを食わないって言う話だったけど、最近は回転寿司とかも食うし、カレーライスもうどんも食うし、そばも食う。そのいずれもキャッシュですよね。

○野口座長：そうですね。現金でなきゃ払えないところがあるので。そういう意味ではＡＴＭでキャッシングしたいというニーズはあるみたいなのです。

　では、そんな形で先ほど言ったみたいに意見シートをまたお配りしておりますので、ご意見を12日までにお寄せいただいて、その後事務局中心に資料を精査して、ほかの分科会とのバランスみたいなものを調整して、最終的に一応この資料で全体会に臨みますというのをいったん皆さんにお戻ししますので、それで改めて見ていただいて、またご意見を出していただいてという２回

ぐらいやりとりさせていただくという。集まるのは今回最後ですけど。そういう形でやっていただくことになります。では今後の日程について事務局からお願いしたいと思います。

〇事務局：はい、「第５回文京区アカデミー推進計画策定協議会」全体会のスケジュールにつきましては、９月 30 日 木曜日の午後６時 30 分からシビックセンター 24 階 区議会第２委員会室で開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。皆さまには本日も長時間に渡りご意見、ご検討いただきましてありがとうございました。分科会も４月から始まりまして、本日第３回までお付き合いいただきましてありがとうございました。本日いただきましたご意見を踏まえまして、また他の分科会との調整も図りながらという形で座長と事務局にお任せいただきまして。座長からもございましたが、次回第５回の全体会の協議会の開催前までに、本日の検討結果を踏まえた修正資料等を皆さまのお送りいたします。それに対してのご意見を第５回の協議会でご発言いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

〇野口座長：では、この意見シートのことについても、ちょっとご説明お願いします。

〇事務局：席上配付させていただいておりますご意見シート、これは８月 12 日 木曜日までに本日の分科会についての感想・ご意見、気が付いたこと等ご記入いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

〇野口座長：ありがとうございます。そういう形で今後も皆さんのお力添えをいただかないと完成しませんので、またお願いしたいと思います。できればよくよく資料を精査して、全体会に臨むときには、もしかしたら先ほど申し上げたみたいに、ほかのメンバーの方から疑問の声が出る可能性もありますので、そのときには我々は一丸となって、そういった疑問を晴らすべく対応していければと思っておりますので。もしかしたら座長の私がお答えしなければならないケースもあるかもしれないですけれども、私が言葉足らずであれば、皆さんにもそうじゃないだろう、こうだろうとお力添えをいただければと思いますので、そういった面でもまだ引き続きお願いしたいと思います。分科会としては取りあえずこれでおしまいということで、今後は全体会でまたお世話になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日はどうもありがとうございました。

全員：ありがとうございました。

以上